

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム 富沢	ユニット名	壺番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	令和2年 10月 8日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2年 10月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の方々1人1人出来る事、やりたい事が異なる為無理に、みんなと同じことを提供するのではなく、やりたい事出来る事を優先し個別でも対応できるようにお手伝いをさせていただいております。現在コロナ禍ということもあり外出を控えているが四季を感じて頂けるような行事に力を入れております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>3ユニットのホームが設立された14年程前は、田や畑に囲まれ緑豊かな景色が見られたが現在は住宅街になっている。道を隔てた斜め向かいに、精神科、認知症に係る専門病院である運営主体の仙台富沢病院がある。ホーム共通の理念として「共に笑顔で」とユニット毎の目標を設け、入居者と職員が互いに笑顔で過ごせるように支援している。町内にホームの広報誌を回覧してもらっている。介護について相談を受けることもあり、地域の拠点にもなっている。町内会の行事に参加したり、ホームの行事にも協力を得られ地域に溶け込んだ交流が図られている。新型コロナウイルス禍にある今は制約されていることが多い。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢 )「ユニット名 壱番館 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念や地域密着型サービスの意義に基づき、各ユニットごとに目標を作成しスタッフで共有し実践につなげている。	法人の理念を基に、みんなで見直した共通の目標「共に笑顔」を意識している。職員も笑顔で接し、笑顔の絶えない生活を共に過ごせるよう実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事や近隣の保育園とも交流があったが、今年は新型コロナウイルスの流行もあり交流の機会は控えている。	町内会とは相互の協力関係が築かれ、保育園の入園、卒園や芋掘り等にも招待された。開設後14年経過し、地域の拠点としての役割も担う等、地域の一員としての交流が着実に築かれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの活動内容を広報紙として町内会へ配布し、地域の方々に知って頂けるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、状況報告等情報交換を行い、サービスの向上に努めているが、現在は新型コロナウイルスの流行に伴い、開催は控えている。	メンバーがホーム内を見学した折、廊下が薄暗いとの意見があり電球を交換し対応した。会議を定期的に開催していたが、3月以降は開催されていない。今後の運営推進会議のあり方を、検討することをお願いしたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない点などは、その都度市町村へ問い合わせし、対応方法等の助言を頂くようにしている。	市主催の「新型コロナウイルスに対する考え方」の研修会に参加し、手洗いの方法やアルコールの正しい使い方等を学び実践している。広報誌を毎月郵送しホームを理解、支援してもらえるよう働きかけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束委員会を設置し、勉強会を開くことでスタッフの身体拘束防止の意識を高めている。	「身体拘束委員会」と「虐待防止委員会」を同じメンバーで設置している。職員全体研修も定期的に行い、正しく理解し身体拘束防止を意識づけている。「ちょっと待つて」などのスピーチロックや職員が使いがちな言葉についても確認している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内に虐待防止委員会を設置し、身体拘束と一緒に勉強会や不定期にアンケートをとることで意識付けに努めている。	職員同士で話し易い雰囲気作りをしている。言葉使い等で気になる場面があった時、直接注意し難い場合には委員会で検討し、勉強会で話し合い、見過ごされることが無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会や勉強会を通して職員にも制度について学ぶ機会を作り、必要なケースに対しては制度を活用できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は納得して頂けるように十分な説明を行い、その時に疑問点はないか等お聞きし、その都度説明させて頂くようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話をかけた際、ケアプランの見直しの時期にも何か気になる事などないか意向を確認し、ユニット内での申し送りや、会議でも話し合いの場を設けている。	面会時にケアのヒントになることを把握している。国勢調査の際に、家族からの情報で、出身校近くの菓子屋の饅頭を食べ懐かしんだ。コロナ禍により面会を制限している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会やユニット会議、全体会議などで、職員の意見、要望などその都度聞くようにし、改善できるものに対してはその都度反映、改善に努めている。	行事等4つの委員会と、定期的に行われる各会議で話し合われた職員の提案を運営に反映している。防災の備品の補充や、コロナ関連の必需品の購入が難しかった時期には、法人の病院の協力が有り調達出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員一人一人との面談や会話等から能力を見極め、勤務状況を把握し、その後の職場の環境や条件の向上に繋がるよう本部と相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加してもらうようにし、参加出来なかったスタッフに対しては伝達できるようにしているが、現在は新型コロナウイルスの流行に伴い研修は控えている。働きながらの助言はその都度行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の別の事業所と勉強会などで交流を持つようにしている。そこで得た情報はホームで話し合い、サービスの向上に努めている。(現在は新型コロナウイルスの流行に伴い控えている)	地域ケア会議で情報交換をしている。山形にある同法人のグループホームと定期的に職員の交換研修を行っている。外出時の活動のやり方の違い等を学び、ヒントを得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にあたり、ご家族様からご本人が普段から気にされていることなど聴取しつつ、ご本人からも聞き取り、不安のない状態で入居して頂ける様配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始にあたり、事前にご家族の意向や疑問点などを確認するとともに良く聞かれる質問などはこちらから説明し不安のないように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供するにあたり、ご本人、ご家族の要望、意向と必要性を見極め、在宅で利用されていたサービスも含めて検討し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がどのような生活を望むのか、職員は関わりを多く持つことでその都度サービスに反映できるか検討し、信頼関係を気付いて行く。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の絆が保たれるよう面会の際など、必要であれば介入し、面会出来ない間は回想法やアルバムを用いて昔の記憶を思い出す機会を提供している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会や馴染みの場所への外出の機会を提供している。手紙なども本人に直接渡すようにしている。(現在は感染症の流行にとまない、面会、外出は控えている)	入居者の近所に住んでいる方の来訪がきっかけで、懐かしい顔ぶれ6~7人で歌と踊りのボランティアとして来てくれた。家族と温泉に行ったり、定義山にドライブし、馴染みの食べ物を賞味する楽しみ等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を考慮し、リビングでの席の配置の工夫や訪室しやすい環境を作っている。また、会話の困難な方もスタッフが間に入り、孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も尋ねてこられる方もおり、その際はその時点で困っていることなどあれば相談にのれるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を把握するために、積極的にコミュニケーションを図り、テレビやチラシを用いて返答しやすいように工夫し、得られた情報をユニット会議などで共有、検討し対応している。	アセスメントシートの記録を参考にしたり、本人の表情からどんなことに関心があるかを引き出す工夫をしている。折り紙を手にしたり得意なことをしてもらい、笑顔で過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から在宅での生活習慣やこだわり、趣味など積極的に情報を収集して、施設生活でも反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動やサービス提供の結果を記録し、現状のADLの把握とともにその情報の共有に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などでモニタリングの機会を設け、スタッフ間が意見の交換を行うと共に、ご家族からも意見を頂き、必要性を考慮した上でケアプランに反映出来るよう努めている。	アセスメント、プラン立案、モニタリング、再度アセスメント、カンファレンス、プランニングを経て家族の意見を取り入れ作成している。行事で歌を歌う時、立位が保てる様立つ練習のアイデアをプランに入れ実現できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には行ったケアとその結果を細かく残し、申し送りやカンファレンスを通してその情報を共有しケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族から買物など外出のニーズが聞かれた場合、必要性に応じて実行可能であるかを速やかに検討できるように努めている。(現在感染症の流行にともない外出は控えている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの感染予防対策の為、地域資源を有効活用することはほとんどできていないが、訪問マッサージや訪問理美容などを利用し気分転換となっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が望まれる病院に通院して頂いている。また、状態の変化に合わせて往診対応して頂ける医療機関を紹介している。	家族付き添い3名、他は看護師や職員の対応で精神科はじめ、それぞれ数カ所の専門病院を受診している。受診後は「受診報告書」で共有している。看取り時は往診で支援している。歯科の定期訪問もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日定時にバイタル測定や顔色、表情、皮膚状態を観察し、どんなことでも気付いたことは職員間で情報の共有をし、看護師にも報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーなどに状態を詳細に記入し、定期的に様子を伺い、相談員、看護師との情報の共有、連絡調整等行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでのお看取りを希望される場合、ご家族と面談し、その希望に添える様に対応している。	看取りの指針と同意書を成文化している。基本理念から介護従事者の心得まで詳細な内容である。不安を抱かないよう勉強会を行い、本人、家族が望む最期を迎えられるよう配慮し、これまで20数名の方の看取りを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応についてのマニュアルを作成しており、看護師に応急処置の指導をして頂きながら対応し、職員同士初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な日中、夜間帯とそれぞれの設定で、地震、火災、水害を想定し、避難訓練を入居者様にも参加して頂き、行っている。	夜間想定を含む災害毎の訓練を3回以上実施している。ほとんどの入居者が参加し、地域の協力もある。「消防訓練評価シート」に気づきと反省点が記載されている。菅川氾濫時は、法人の病院に避難するとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や入浴介助の際は、一人一人の身体的、精神的状況や性格などに合わせ、羞恥心に配慮したお声掛けや対応を行っている。	排泄の失敗時は、周りの方に気づかれないような声がけをし、あらかじめ交換する物を準備をして置き手早く交換する。居室で独りで過ごしたい思いの時は、無理強いせずゆくり休んでもらう。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を上手く表すことが難しい方に対してはこちらから話題の提供、選択しを提示し、自己決定して頂けるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望があれば、食事の時間をずらしたり居室でお茶を飲んで頂いたり、好きな事、やりたい事を取り入れ、一人一人のペースを大切にし、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの衣類などがあればご家族に持ってきて頂いている。又、更衣の際もご本人と一緒に服を選びその日に着たい物を着て頂いている。お化粧が習慣だった方は洗顔後鏡を見ながらクリームを塗って頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段からスーパーなどのチラシをみながら、好きな食べ物や食べたい物を聴取し、季節の物なども献立に反映させている。	肉が好きと言う方が多い。職員が好みを取り入れた献立を考え、出来る範囲で一緒に作っている。法人の管理栄養士に栄養のバランスを見てもらっている。家族と医師の許可を得て、ビールを楽しんでいる方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理法や食事形態を工夫しバランスよく提供。水分も決められた時間だけでなく、体調に合わせて提供。食事が進まない方に対しては、声掛けや、時間をずらしたり、別な物を提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら口腔ケアを行なうことが出来る方に対してはお声がけを行なったり見守りのもと行って頂くようにしている。自力では難しい方に対しては介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、それぞれの排泄パターンを把握したうえで誘導、介入することで、汚染の頻度の軽減、排泄の自立に向けた支援を行っている。	食事前後の声かけや、ソワソワして落ち着きなくなる等のサインを把握しトイレに誘導している。入居時にはリハパンとパッドを併用していた方が、早めに声掛けすることにより布パンツに改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品の提供。水分摂取量の把握。便秘の日数を確認し、腹部マッサージや歩行介助で身体を動かす機会を提供、お茶を乳製品に替えたりとアプローチしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前にご本人へ入浴の提案を行い、希望やタイミングに合わせて誘導、入浴時は好みの歌を歌ったり、こまめにお声かけを行う。	一番風呂を希望する方が続いた場合は、お湯を入れ替えて入浴してもらうこともある。入浴剤や季節の柚子湯等を楽しんでいる。重度の方は、足浴や2人介助で安全に配慮し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅にいた時の生活習慣やその時の体調に応じて臥床お声がけし、室温、湿度、部屋の照明なども配慮。独語や体動が見られた際は介入し、定時と状況に応じて巡視を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診報告書を必ず確認し、薬の効果や副作用など変化がないか状態の把握に努めている。内服時はその都度ダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの話や普段の生活から好まれる家事活動や趣味活動など楽しく参加できる活動を見極め、喜ばれる行事やレクリエーション、活動などに参加できる機会を提供している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	欲しい物や行きたい場所などを聞き、希望がない場合は職員から提案することで、外出、外食などの機会を作っている。(現在は感染症の流行に伴い外出(外食など)は控えている)	日常的に散歩をしたり、近所の桜の名所にも出かけている。定義山、秋保工芸の里、青葉城が外出先として人気がある。バリアフリーになっているか等の確認をし、計画的に季節の外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、本人管理が可能な方であれば、ご本人にもお小遣い程度の額を管理して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話での取り次ぎを行い、耳が遠い方に関しては職員が代わりに対応。お手紙が届いたときは、ご本人へお渡しし、読めない様子の時はかわりに代読行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは季節感がわかるように飾り付けをしている。また、玄関に観葉植物を置いたり、廊下に写真を飾ったりと、居心地よい空間を作るようにし努めている。	キッチン前のカウンター式の台は、食事の準備や配膳の作業台として重宝している。ホールにあるアルバムの中に、気にいった写真があれば自由に持ち帰ってもらっている。面会がままならない現状であるが、萩やすすき等季節の花を届けている家族がいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテーブル席の他ソファ一席もあり、テレビを視聴されたり、他者と談話されたりと、思い思いに過ごされている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションなどの活動で作成した習字や塗り絵、馴染みのあるものや写真などを飾り、居心地の良い空間を提供している。	自分の居室が確認出来る様に、入口に表札をかけている。本人手作りの木目込み人形を飾ったり、出来るだけ自宅の環境に近づけた物の配置を工夫している。テレビを見たり、日記をつけている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事、わかる事を職員間で情報共有し、安全に配慮し、環境整備を行うことで、今後も続けることが出来る様に支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム 富沢	ユニット名	弐番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	令和2年 10月 8日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2年 10月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の方々1人1人が自分らしく過ごして頂ける様に生活支援の提供や、ホームの中で好きな事が出来るよう支援させて頂いています。現在コロナウイルスの影響で買い物や、外出等に出掛けることは出来ていないが、ホーム内にて誕生会や季節の行事を取り入れ気分転換も出来るようにしている</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>3ユニットのホームが設立された14年程前は、田や畑に囲まれ緑豊かな景色が見られたが現在は住宅街になっている。道を隔てた斜め向かいに、精神科、認知症に係る専門病院である運営主体の仙台富沢病院がある。ホーム共通の理念として「共に笑顔で」とユニット毎の目標を設け、入居者と職員が互いに笑顔で過ごせるように支援している。町内にホームの広報誌を回覧してもらっている。介護について相談を受けることもあり、地域の拠点にもなっている。町内会の行事に参加したり、ホームの行事にも協力を得られ地域に溶け込んだ交流が図られている。新型コロナウイルス禍にある今は制約されていることが多い。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢 )「ユニット名 式番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念に基づき、1年ごとにユニットごとで集まり話し合いをし目標を立てている。	法人の理念を基に、みんなで見直した共通の目標「共に笑顔」を意識している。職員も笑顔で接し、笑顔の絶えない生活を共に過ごせるよう実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事に参加している。近くの保育園とも交流させて頂いている。(現在新型コロナウイルスの流行に伴い控えている)	町内会とは相互の協力関係が築かれ、保育園の入園、卒園や芋掘り等にも招待された。開設後14年経過し、地域の拠点としての役割も担う等、地域の一員としての交流が着実に築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも理解してもらえるように町内へ広報紙を回覧して頂き、玄関先に園芸や野菜を作ることで入居者の方々の顔が見える関係作りを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者にホームの良い点、悪い点を出して頂き、ホームでの今後の運営に繋がるように努めている。	メンバーがホーム内を見学した折、廊下が薄暗いとの意見があり電球を交換し対応した。会議を定期的開催していたが、3月以降は開催されていない。今後の運営推進会議のあり方を、検討することをお願いしたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や分からない事は市町村に確認をとるようにしている。又、広報紙を仙台市や区役所に送付している。	市主催の「新型コロナウイルスに対する考え方」の研修会に参加し、手洗いの方法やアルコールの正しい使い方等を学び実践している。広報誌を毎月郵送しホームを理解、支援してもらえるよう働きかけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束委員会を設置し、月に1回各ユニットから集まり自分たちが行っているケアが身体拘束に当たらないか見直しを行っている。	「身体拘束委員会」と「虐待防止委員会」を同じメンバーで設置している。職員全体研修も定期的に行い、正しく理解し身体拘束防止を意識づけている。「ちょっと待つて」などのスピーチロックや職員が使いがちな言葉についても確認している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けており、月に1度集まり勉強会を行っている。	職員同士で話し易い雰囲気作りをしている。言葉使い等で気になる場面があった時、直接注意し難い場合には委員会で検討し、勉強会で話し合い、見過ごされることが無いように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会や勉強会を通して制度の理解に努め、必要に応じて活用できるようにしている。職員は知識不十分な為、今後勉強会などを行っていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分に説明を行っているが、不安や疑問な点がある場合は、納得して頂けるまで説明を行うようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランの説明時に職員からお声がけし、ご家族様からも何でも相談して頂けるような関係性に努めている。頂いたご意見は会議などで話し合い今後のケアや運営に活かせるようにしている。	面会時にケアのヒントになることを把握している。国勢調査の際に、家族からの情報で、出身校近くの菓子屋の饅頭を食べ懐かしんだ。コロナ禍により面会を制限している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議などで職員が意見を言える場を設け、皆で検討し、より良いケアが行えるよう反映させている。	行事等4つの委員会と、定期的に行われる各会議で話し合われた職員の提案を運営に反映している。防災の備品の補充や、コロナ関連の必需品の購入が難しかった時期には、法人の病院の協力が有り調達出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の能力に応じて出来る事をしっかり行っているかを見極め、給与水準に反映している。又、労働時間は出来るだけ相談に応じるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人医療機関で行われる勉強会や研修会にホームの職員も参加させて頂いている。(現在新型コロナウイルスの流行に伴い参加出来ていない)		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の別の事業所と交流を持つ機会を作っている。(現在は新型コロナウイルスの流行に伴い控えている)	地域ケア会議で情報交換をしている。山形にある同法人のグループホームと定期的に職員の交換研修を行っている。外出時の活動のやり方の違い等を学び、ヒントを得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際不安や疑問点はご本人から言い出しにくいこともある為、出来るだけ話しやすい雰囲気を作り、不安のない状態で入居して頂ける様配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階でご家族が不安に思われていることや疑問点などを聞き取り、不安のないように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを提供するにあたり、ご本人、ご家族の要望を伺い、必要性に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がどんな暮らしをしたいのか、また、気持ちよく過ごして頂ける様にするにはどうしたら良いのか、関わりを多く持つことで、その都度サービスに反映できるように検討していく。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の絆が薄くならないように、回想法やアルバムを用いて昔の記憶を思い出す機会を提供。また、面会やご家族との外出の機会も提供。(現在は感染症の流行に伴い外出や面会は控えている)		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との面会や馴染みの場所への外出などの機会を提供していたが、現在は感染症の流行に伴い控えている。	入居者の近所に住んでいる方の来訪がきっかけで、懐かしい顔ぶれ6~7人で歌と踊りのボランティアとして来てくれた。家族と温泉に行ったり、定義山にドライブし、馴染みの食べ物を賞味する楽しみ等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格、相性を考慮し、職員が見守り介入する事で利用者間のトラブルを未然に防ぎ、ホーム内でも孤立することなく他者との関わりが保てるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、病状の事など不安で聞きに来られる方がおられ、その都度対応させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを探る為に、ニュースやチラシを用いて返答しやすいように工夫し、積極的にコミュニケーションを図り、得られた情報をユニット会議などを通じて皆で共有し、対応している。	アセスメントシートの記録を参考にしたり、本人の表情からどんなことに関心があるかを引き出す工夫をしている。折り紙を手にしたり得意なことをしてもらい、笑顔で過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活での習慣や趣味活動を施設生活でも反映できるよう、ご家族と一緒に生活習慣など伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に入居者様の状態や発言、行動や反応などを記載し、ユニット会議の際に個別検討を行う事で、現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	感染症の流行に伴い、ご家族との関わりは控えているが、月に1回のお手紙や、必要時電話連絡などで、生活状況や、受診状況などお伝えし、ご本人、ご家族の意見を反映したケアプランの作成に努めている。	アセスメント、プラン立案、モニタリング、再度アセスメント、カンファレンス、プランニングを経て家族の意見を取り入れ作成している。行事で歌を歌う時、立位が保てる様立つ練習のアイデアをプランに入れ実現できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアプランを実施した結果を残し、今後のケアプランに反映出来るように、定期的に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護、医療サービスではなく、ご本人が在宅生活で利用していた理容店やクリーニング店、スーパーなどを利用し、生活の幅を狭くしないよう可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の流行に伴い現在外出や外部との関わる機会は控えているが、落ち着いたら、買物や外食、地域の行事への参加を検討している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医とのつながりを大切に、ご本人やご家族の希望に沿うように支援している。	家族付き添い3名、他は看護師や職員の対応で精神科はじめ、それぞれ数カ所の専門病院を受診している。受診後は「受診報告書」で共有している。看取り時は往診で支援している。歯科の定期訪問もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で普段と状態や様子の変化、疑問に思ったことがあった際は、速やかに看護師へ報告、相談を行い指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、ご家族や医療機関とこまめに連絡をとり、状況の把握、退院の調整、退院後のフォローに努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族へターミナルケアについての説明を行い、状況の変化に合わせて変更できることを伝えている。ご本人、ご家族が望む最期を迎えられるように配慮している。	看取りの指針と同意書を成文化している。基本理念から介護従事者の心得まで詳細な内容である。不安を抱かないよう勉強会を行い、本人、家族が望む最期を迎えられるよう配慮し、これまで20数名の方の看取りを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応や応急処置について指導して頂きながら、全員が対応できるように努めている。又、管理者やユニット長に連絡をとれるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な日中、夜間帯とそれぞれの設定で、地震、火災、水害を想定しての避難訓練を行っている。入居者様も参加して頂いている。	夜間想定を含む災害毎の訓練を3回以上実施している。ほとんどの入居者が参加し、地域の協力もある。「消防訓練評価シート」に気づきと反省点が記載されている。筑川氾濫時は、法人の病院に避難するとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや浴室などで介入する際はご本人へ羞恥心に配慮したお声掛けを行った上での支援を心掛けている。	排泄の失敗時は、周りの方に気づかれないような声がけをし、あらかじめ交換する物を準備をして置き手早く交換する。居室で独りで過ごしたい思いの時は、無理強いせずゆっくり休んでもらう。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的にコミュニケーションを図り、ご本人の意思を引き出せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やペースを考えつつ、好きな事、やりたいことを取り入れながらの支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みを考慮しつつ、季節感を大切にスタイルの提案を心掛けている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が出来る事はなるべく手伝って頂いている。スーパーなどのチラシを見ながら好きな物や食べたい物、季節の物(旬のもの)などを献立に反映させている。	肉が好きと言う方が多い。職員が好みを取り入れた献立を考え、出来る範囲で一緒に作っている。法人の管理栄養士に栄養のバランスを見てもらっている。家族と医師の許可を得て、ビールを楽しんでいる方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調に気を配り、入居者様に合わせた調理方法や食事形態を工夫し提供している。水分の摂取量が少ない方には飲んで頂ける様にお声がけや提供頻度増やすなど工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内の状態を把握し、その方に合わせた介助やお声がけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、それぞれの排泄パターンの把握をした上で誘導を行っている。自らの訴えがない場合も、そわそわしていないかなど様子を見てお声がけしている。	食事前後の声かけや、ソワソワして落ち着きなくなる等のサインを把握しトイレに誘導している。入居時にはリハパンとパッドを併用していた方が、早めに声掛けすることにより布パンツに改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品の提供を意識して行っている。日常生活の中でも身体を動かして頂き、便秘傾向みられた際は、トイレの際腹部のマッサージを行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前に希望を伺ったり、体調(バイタル)チェックし、お声がけ行っている。要望聞かれた際は、出来る限り応じることが出来る様に努めている。	一番風呂を希望する方が続いた場合は、お湯を入れ替えて入浴してもらうこともある。入浴剤や季節の柚子湯等を楽しんでいる。重度の方は、足浴や2人介助で安全に配慮し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や様子を見て、お声がけ、休んで頂いている。居室が快適であるよう休む前に室温、湿度等確認行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認し、それぞれの薬について理解するようにしている。内服時のダブルチェックは必ず行っている。臨時薬や変更がある場合は申し送り等に記入して職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	したいことを行ってい頂けるよう日頃の会話などから好みを把握し、継続出来るように一部介助を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行に伴い、外出は控えている。再び外出が可能になったら、出かけられるように検討していく。	日常的に散歩をしたり、近所の桜の名所にも出かけている。定義山、秋保工芸の里、青葉城が外出先として人気がある。バリアフリーになっているか等の確認をし、計画的に季節の外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、管理出来る方にはご本人にもお小遣い程度を管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望がある場合は、電話の使用や取り次ぎなど行っている。耳が遠い方などに関しては、職員が代行したり、お手紙を書くなどの支援も行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感がわかるように飾り付けをしたり、行事を行った際の写真を飾っている。玄関先には植物を置き、外気浴の時に楽しんで頂いている。	キッチン前のカウンター式の台は、食事の準備や配膳の作業台として重宝している。ホールにあるアルバムの中に、気にいった写真があれば自由に持ち帰ってもらっている。面会がままならない現状であるが、萩やすすき等季節の花を届けている家族がいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に、テーブル席とは別にソファー席を置き、テレビを見たり、利用者様通しがおしゃべりしたり、思い思いに過ごして頂ける様支援している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅などで使っていた馴染みの物を置いたり、レクリエーションで作成した塗り絵やプリント、行事の写真などを飾り居心地の良い空間を提供している。	自分の居室が確認出来る様に、入口に表札をかけている。本人手作りの木目込み人形を飾ったり、出来るだけ自宅の環境に近づけた物の配置を工夫している。テレビを見たり、日記をつけている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の力を見極め安全に配慮しながら環境整備、整理整頓を行っている。出来る事、行こなってきたであろうことを今後も続けてできるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム 富沢	ユニット名	参番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	令和2年 10月 8日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 10 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が楽しく、笑顔で過ごす事が出来る様に支援させて頂いております。その中で季節の行事なども積極的に取り入れており、コロナ禍ということもあり外で行うことが難しい為室内で工夫を凝らして夕涼み会を行っております。日々の生活の中で楽しいと感じて頂ける様に一人一人から聞き取りを行い日々のケアに生かせるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットのホームが設立された14年程前は、田や畑に囲まれ緑豊かな景色が見られたが現在は住宅街になっている。道を隔てた斜め向かいに、精神科、認知症に係る専門病院である運営主体の仙台富沢病院がある。ホーム共通の理念として「共に笑顔で」とユニット毎の目標を設け、入居者と職員が互いに笑顔で過ごせるように支援している。町内にホームの広報誌を回覧してもらっている。介護について相談を受けることもあり、地域の拠点にもなっている。町内会の行事に参加したり、ホームの行事にも協力を得られ地域に溶け込んだ交流が図られている。新型コロナウイルス禍にある今は制約されていることが多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢 )「ユニット名 参番館 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念、地域密着サービスの意義に沿って年度ごとにホーム全体・ユニットでの目標を立てて達成できるように取り組んでいる	法人の理念を基に、みんなで見直した共通の目標「共に笑顔」を意識している。職員も笑顔で接し、笑顔の絶えない生活を共に過ごせるよう実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へと参加しており地域での行事や廃品回収に参加することで地域とのつながりを持てるようにしている	町内会とは相互の協力関係が築かれ、保育園の入園、卒園や芋掘り等にも招待された。開設後14年経過し、地域の拠点としての役割も担う等、地域の一員としての交流が着実に築かれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を招待する行事を行い、ホームのことを知っていただくと共に、どのように過ごされているかを知っていただく機会を設けている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告を行うと共に、ホームでの改善点など伺えるようにしている。地域への貢献に関してもご意見がもらえるようにしている	メンバーがホーム内を見学した折、廊下が薄暗いとの意見があり電球を交換し対応した。会議を定期的に開催していたが、3月以降は開催されていない。今後の運営推進会議のあり方を、検討することをお願いしたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点やわからないことに関してその都度問い合わせ、対応方法など助言をいただけるようにしている	市主催の「コロナウイルスに対する考え方」の研修会に参加し、手洗いの方法やアルコールの正しい使い方等を学び実践している。広報誌を毎月郵送しホームを理解、支援してもらえるよう働きかけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設けており、委員会を中心として勉強会やアンケートを行うことで拘束への理解の深度化、認識の現状の把握に努め、防止へとつなげている	「身体拘束委員会」と「虐待防止委員会」を同じメンバーで設置している。職員全体研修も定期的に行い、正しく理解し身体拘束防止を意識づけている。「ちょっと待つて」などのスピーチロックや職員が使いがちな言葉についても確認している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け、勉強会や資料の作成を行い、どのような事が虐待にあたるか、その弊害はどのようなものかをスタッフ全体で学べるようにしている	職員同士で話し易い雰囲気作りをしている。言葉使い等で気になる場面があった時、直接注意し難い場合には委員会で検討し、勉強会で話し合い、見過ごされることが無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加し必要に応じて制度を利用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明において、十分にご理解が得られるように対応している。また、疑問に思われたことはその都度説明させていただいている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でお話を伺える際は、要望などを聴取し会議などで取り上げられるようにしている	面会時にケアのヒントになることを把握している。国勢調査の際に、家族からの情報で、出身校近くの菓子屋の饅頭を食べ懐かしんだ。コロナ禍により面会を制限している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などにおいて聞かれた職員の意見や要望は必要に応じて、法人の本部へと報告している	行事等4つの委員会と、定期的に行われる各会議で話し合われた職員の提案を運営に反映している。防災の備品の補充や、コロナ関連の必需品の購入が難しかった時期には、法人の病院の協力が有り調達出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の目標や状態を把握し、その後の職場環境や条件の向上につながるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保を行うと共に、本人の研修参加への希望にもこたえられるようにしている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での別事業所の職員と交流を持つと共に、研修時に他事業所とも情報の交換を行っている	地域ケア会議で情報交換をしている。山形にある同法人のグループホームと定期的に職員の交換研修を行っている。外出時の活動のやり方の違い等を学び、ヒントを得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期においてのご本人様の不安に思われていること、ご家族様にも本人様が常々不安にされていることを聴取し、解消できるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入するにあたってご家族の方の不安や要望を遠慮なく言っていただけるようにしている。また、質問の多い事柄に関してはこちらから説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様から積極的に情報を聴取し、現状の把握に努め、必要なサービスを提供していけるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の情報の収集を行い、日常の関わりからニーズを探ることで、その方のされてきた事・習慣を施設内でも継続できるように支援している		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族様から情報・要望を聴取し、ケアプランへの反映をしている。また、自宅への外出の際は介助方法などを伝えられるようにしている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様・ご家族様からなじみの場所をうかがい、外出できる機会を提供をしている	入居者の近所に住んでいる方の来訪がきっかけで、懐かしい顔ぶれ6~7人で歌と踊りのボランティアとして来てくれた。家族と温泉に行ったり、定義山にドライブし、馴染みの食べ物を賞味する楽しみ等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や趣味などに配慮し、スタッフも間に入ることで交流を図っている。ホーム全体での行事も定期的に行うことで、ユニットだけではない交流の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談にのれることを伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	積極的に関わりを持つことでその方のニーズを探り、得られた情報を共有できるように記録し送りしている	アセスメントシートの記録を参考にしたり、本人の表情からどんなことに関心があるかを引き出す工夫をしている。折り紙を手にしたり得意なことをしてもらい、笑顔で過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様から情報を聴取し、習慣を続けていただけるように支援し、馴染みの場所があればいけるように機会の提供を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の発言・行動をケース記録へと記入し、会議の際に個別の検討を行うことで把握に努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な関わりの中から得られたその方の意向に対して、カンファレンスにてどのようにすれば達成できるかを話し合っている	アセスメント、プラン立案、モニタリング、再度アセスメント、カンファレンス、プランニングを経て家族の意見を取り入れ作成している。行事で歌を歌う時、立位が保てる様立つ練習のアイデアをプランに入れ実現できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録へとケアプランへの反応・発言を記入し見直しへと活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居以前に利用されていたサービスがあり、継続の希望があれば、ホームの枠にとられず利用していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物などへとお誘いし、その際近隣の公園や商業施設を利用している。また、行事外出においては車椅子使用可のレジャー施設を利用している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様の希望されるかかりつけ医を継続して利用していただいている。特に希望がなければ協力医療機関を利用して頂いている	家族付き添い3名、他は看護師や職員の対応で精神科はじめ、それぞれ数カ所の専門病院を受診している。受診後は「受診報告書」で共有している。看取り時は往診で支援している。歯科の定期訪問もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り・全体会議に看護師も参加しており、状態の把握をいただいている。また、対応や処置についてその都度相談できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーへとその方の状態を詳細に記入し、ムンテラの際は可能であればスタッフも同席させていただき、退院後の対応へと活かせるようにしている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・ご家族様に終末期の対応について確認を行い、ホームでの看取りを希望される場合は添えるように支援している。看取りに関しての勉強会を行い、対応について学べるようにしている	看取りの指針と同意書を成文化している。基本理念から介護従事者の心得まで詳細な内容である。不安を抱かないよう勉強会を行い、本人、家族が望む最期を迎えられるよう配慮し、これまで20数名の方の看取りを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の対応のマニュアルを作成しており、特変の予想される方に関してはその際の対応について医療機関・看護師へとその都度相談している		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間・地震など様々なシチュエーションのマニュアルを作成し、それに沿った訓練を行っている	夜間想定を含む災害毎の訓練を3回以上実施している。ほとんどの入居者が参加し、地域の協力もある。「消防訓練評価シート」に気づきと反省点が記載されている。策川氾濫時は、法人の病院に避難するとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の介助に関して、その方のADLを見極め過剰な介入・介助とならないように対応している	排泄の失敗時は、周りの方に気づかれないような声がけをし、あらかじめ交換する物を準備をして置き手早く交換する。居室で独りで過ごしたい思いの時は、無理強いせずゆっくり休んでもらう。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な関わりの中でその方が思いや希望を表された際は記録に残し、添えるように対応の統一を図っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、過ごされる場所などはその方の希望・ペースに添えるように柔軟な対応をとるため、スタッフ間で連携をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助のしやすさを優先せず、その方の希望を反映できるようにしている。また、行事やハレの日にはお化粧をしていただいている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや食形態の工夫を図ると共に、見た目にも気を配り、季節のものを取り入れるなど工夫している。また家庭菜園の野菜も収穫していただいている	肉が好きと言う方が多い。職員が好みを取り入れた献立を考え、出来る範囲で一緒に作っている。法人の管理栄養士に栄養のバランスを見てもらっている。家族と医師の許可を得て、ビールを楽しんでいる方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェック表へと記入し、申し送りも行い把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声掛けを行い必要であれば一部介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表へと記入しパターンの把握に努めると共に誘導の必要な方に関してはその方の尊厳に配慮した声掛けを心がけている	食事前後の声かけや、ソワソワして落ち着きなくなる等のサインを把握しトイレに誘導している。入居時にはリハパンとパッドを併用していた方が、早めに声掛けすることにより布パンツに改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や体を動かしていただくなどして便秘の予防に努めている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	その方の希望や習慣にあわせて声掛けを行っている。また、介助方法の工夫・検討を行い入浴するという行為を可能である限り継続していただけるように支援している	一番風呂を希望する方が続いた場合は、お湯を入れ替えて入浴してもらうこともある。入浴剤や季節の柚子湯等を楽しんでいる。重度の方は、足浴や2人介助で安全に配慮し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中においても疲労のみられる際は休息をすすめている。夜間浅眠な方に関しては、日中の対応・過ごし方を工夫しよく休んでいただけるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬情をはさみいつでも目を通せるようにしている。処方・処置の変更があった際は変更の理由も含め申し送りしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様・ご家族様からその方の生活歴や習慣を聴取し、ホームでの生活においても続けていただけるように支援している		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出の機会を持てるように支援している。日常の会話において希望が聞かれたさいは行事などを通して実現できるようにしている	日常的に散歩をしたり、近所の桜の名所にも出かけている。定義山、秋保工芸の里、青葉城が外出先として人気がある。バリアフリーになっているか等の確認をし、計画的に季節の外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出において、ご自分の財布があることで安心され楽しめる方もおり、ご家族の協力のもと、ご自分で管理できるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎ・代行を行っている		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてホールの模様替えを行い、その時期にあった花を利用者の方に飾っていただいている	キッチン前のカウンター式の台は、食事の準備や配膳の作業台として重宝している。ホールにあるアルバムの中に、気にいった写真があれば自由に持ち帰ってもらっている。面会がままならない現状であるが、萩やすすき等季節の花を届けている家族がいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや行事にあわせて座席の位置を考え配慮している		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にも協力していただき、その方の使い慣れたものを居室にて使っていただいている。また、レクや行事にて作成した作品を飾っていただいている	自分の居室が確認出来る様に、入口に表札をかけている。本人手作りの木目込み人形を飾ったり、出来るだけ自宅の環境に近づけた物の配置を工夫している。テレビを見たり、日記をつけている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを配置し、サイドボードにはどこに何があるかわかるように表示している		